

みんなちがってみんないい

その(2) 指導教諭 木村 栄

前回、通常学級の児童生徒の中に、一定数発達障がいと思われる子どもがいること、「障がい」は社会生活を営む上で「障がいがある」と考えるべきで、これは「ハンディキャップ(社会的不利)」と捉えることができること、学校生活を営む上で「障がい(ハードル)」がある児童生徒が多くいて、これら子どもたちに適切な指導や支援を行うことが学校の課題であること、までお話ししました。

さて、今回は「発達障がい」の一つ、「LD(学習障害)」について基本的なことをお話します。

LDは「Learning Disability (ラーニング ディサビリティ)」の略で、「学習障害」と訳されています。言葉通り、学習に大きな影響が見られます。

LDで有名なのが、映画俳優のトム・クルーズです。映画「トップガン」や「ミッションインポッシブル」などをご覧になった方も多いのではないのでしょうか。

彼がLDであることは良く知られています。幼いころ、LDが原因で学習ができないこともあっていじめられたこともあったそうです。彼は文字の読み書きが苦手なタイプのLDで、読字障害(ディスレクシア)と書字表出障害(ディスグラフィア)の両方であると言われます。文字が上手く読めないで、映画の台本はスタッフや家族に代読してもらったものを録音し、それを何度も聞きながらセリフを覚えていきます。最近では上手に書けるようになったそうですが、デビュー当時は自分のサインもきれいに書けなかったようで、サインの一部が鏡文字(左右逆転した文字)になったものもあったそうです。

LDには他にも、算数の計算や図形が上手く認知できない算数障害(ディスカルキュリア)などもあります。

LDで有名な芸能人は、他にもウーピー・ゴールドバーグやオーランド・ブルームなどのハリウッド俳優や、スティーブン・スピルバーグなどの監督など数多くいます。

LDは脳の機能障害によるものと考えられてい

ますが、詳しい説明には至っていません。これは先天性(生まれつき)の障がいですが、事故などによる脳へのダメージで起こる場合もあります。

読字障害は、普段の会話には問題がなく、聞けば意味が理解できるものの、字を読んで理解しようとする、日本語が知らない国の言語に見えてしまうような感覚になったり、漢字がどれも同じものに見えたりすることをイメージしてください。

書字障害は、文章を読むことも理解することもできるのに、いざ自分の考えを書いたり、人の話をメモしたりしようすると、字が分からなくて書けない状況をイメージしてもらえますでしょうか。

みなさん急にアラビア語圏の学校に編入し、「アラビア文字を書き取りなさい、そして読みなさい。」と言われたら、必死で真似をして書き写すでしょう。アラビア語を言語としている人からすれば、「おいおい、左から右に書いているよ(アラビア語は右から左に読み、書き進みます)。」とか、「書き順がまるっきり違うじゃないか。」と笑われてしまうかもしれません。

読字障害や書字障害の人は、普段話している日本語が、書いたり読んだりするときだけ、まったく違う言語のように目に映り、どれだけ練習してもなかなか上達することができません。

算数障害は、計算がなかなか理解できない、数の概念が頭に入らない、同じ図形の見分けがつかないなどをイメージしてください。算数障害の人の中には簡単なお金の計算ができなかったり、数を記憶できなかったり、アルバイトや仕事に支障をきたしている人もいます。

他の発達障がいにも共通することですが、決して本人の努力不足でもありませんし、家庭の躓(しつ)けの問題でもありません。

誰にでも苦手なことはあります。いわば個性だと言えます。LDもちょっと個性が強いと考えることができます。

ただ、そのままでは困ることが多いので、適切な支援が必要になってくるのです。

今回は、ADHDについてお話します。(元小学校長 浦上保彦先生の文章を参考にしています)

前回の学校だよりから連載を開始した木村指導教諭執筆の「みんなちがってみんないい」。

今回は、学習障害の一つ「LD」に関するお話でした。

「ひらがなの音読がたどたどしく、読み間違いが多い。」

「先生が黒板に書いたことをノートに写すのが遅い。」

「考えていることを書いて表現することが苦手。」

「算数の文章問題が解けない。」

「このような子どもたちの状況を見たとき、大人は、「頑張ればできるの」「努力が足りない」と声をかけることがありますが、もちろん、本人の努力不足によるものもあります。

でも、もしそれがLDに起因しているのであれば、「努力が足りない」はただ残酷な言葉でしょう。頑張ってもどうしてもできないことに対して、「頑張ればできる」と励ましの言葉ではないのです。今回の「みんなちがってみんないい」の最後には、「LDもちょっと個性が強い」と考えることができません。ただ、そのままでは困ることが多

いので、適切な支援が必要になってくるのです。」と書かれています。

時津東小学校でも、子どもさんの様子にあわせて、様々な支援を行うことが可能です。

まずは、学校にご相談ください。

子どもたちの困っていることにどんな支援ができるのか、学級担任と一緒に、木村指導教諭も話を聞き、対応していきます。もちろん、管理職も一緒に考えていきます。

悩んでいる内に、時間はどんどん経過していきます。子どもを苦しめる個性に適切な支援をして、少しでも早く子どもに困り感を軽減したいのです。そして、時津東小学校に通う全ての児童に、学校での勉強が楽しく感じてもらいたいです。

ご相談をお待ちしています。

(お知らせ)

10月9日(水) 13時から15時まで、東つ子研究室で、なのはな学級PTA研修会が開催されます。なのはな学級以外の保護者の参加も可能です。とてもよい研修会ですので是非ご参加ください。詳しくはホームページ参照。